

楽しく合格させる方法のシリーズ その3

「自学能力」を養えば、手間がかからず職員が楽できる！！

※ 本シリーズは、今回で三回目となった。この間、関係各機関から寄せられた声の中に「苦勞して合格させたが、日本語文が書けないために、実務上に問題が多い」等の声が多数あった。

※ さらに、「合格したと同時に帰国されてしまった」とか、「他の機関に移籍してしまう」等、期待していた労働力が定着しないという不満の声も多数あった。

※ 受け入れ機関は、合格だけを目標に教育するのではなく、合格後の人材として「即戦力になる受験者教育」が絶対に、必要不可欠だ。

※ 到達度試験参加者の場合は、合格すれば当然のように、在籍している機関で長年働いている。この違いは、「教育期間中に仕事に対する愛着が生まれる指導」を意識的にしているかどうかにかかっている。

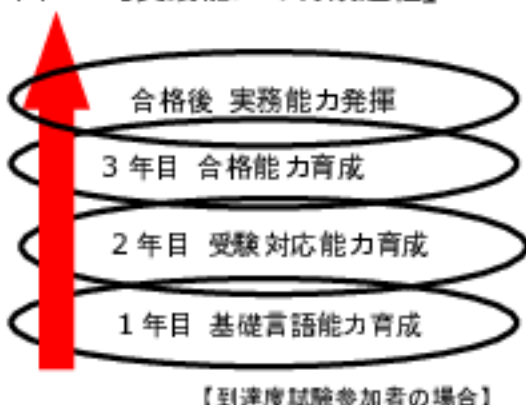
1、【楽しく合格させるには、「自学能力」を養うこと！！】

1、「自学能力」を養えば、どう変わるか？

- A、勤務時間中に、週3時間程度の学習で十分足りる
- B、受験者の学習意欲が継続し、自ら専門知識を増加させる
- C、積極的な会話をし、職場環境が大きく好転する（3頁参照）

※ 図1で表した「三か年学習計画」に基づいて、受験者自身が【実践能力の育成過程】を理解するために、自ら積極的に学習するように指導をしていくことが肝要だ。その過程で、合格に必要な言語知識を自発的に調べて、習得していく習慣が身につくように、指導することが重要だ。この結果、「自学能力」が身につくことになる。

図1 【実践能力の育成過程】



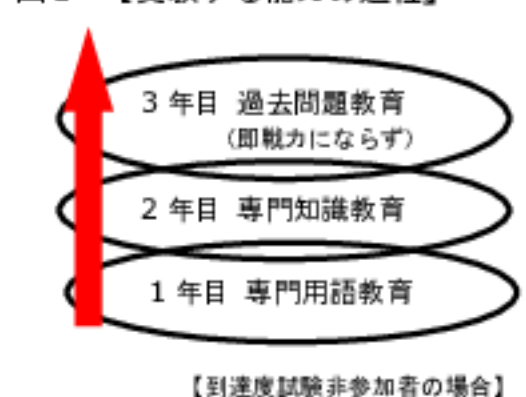
2、「自学能力」がない場合は、どんな状態か？

- A、図2の通り、受験者が教えてもらう受け身の姿勢となる
- B、自発性や積極性に欠けた受験者となる
- C、「何事も与えられて当たり前」の気持ちが、巨大となる
- D、仮に合格できても、実践力のない人材となる

※ 図2の過程を踏んだ受験者の50%以上が不合格となっており、合格できても日本語文が書けず、また、打ち合わせや会議等で意見を述べるできないために、「実践力となり得ない人材」となっている。即ち、単純労働者レベルの人材となる。

※ 上記のような合格者は職場環境に馴染めず、多くの者が帰国したり、転籍したり、或いは、辞職したりする者が年々増加している。即ち、受け入れ機関で長期に渡る人材として確保できないのが実態で、日常的な人材不足に見舞われている。

図2 【受験する能力の過程】



3、経営者の視点から、図1か図2の方法を選択するかは、今後の経営に多大な影響を及ぼす

【図1の選択の場合】

- A、確実に合格へ導くことができる
- B、日本人の対応時間が軽減されて業務に専念できる
- C、日本人と同様の労働条件で働かせることができる
- D、受け入れにかかった費用を、合格させて長期滞在させることで、確実に回収することができる
- E、計画的に人材育成ができて、慢性的な人材不足を解消できる
- F、人材の確保ができ、経費増大を削減でき、経営の安定化を図ることができる

【図2の選択の場合】

- A、合格への道が不透明となる
- B、日本人の対応時間が増大し、負担となる
- C、勤務時間内の学習時間が、長時間必要となる
- D、不合格となった場合は、受け入れ費用は全て無駄となり、費用回収ができない
- E、計画的に人材育成ができないために、慢性的な人材不足が継続する
- F、人材確保ができないために、経費増大が続き、経営の不安定の原因を招く

II、[どんな受け入れ機関が、合格率が高いか？！]

- 1、合格率が高い受け入れ機関は、管理体制が確立している
- 2、受験者の「自主管理能力」を尊重する機関は、合格率が高い
- 3、受験者の「自主管理能力」が高ければ、自学能力が養われ、職員の負担が少なく、合格率を高められる
- 4、「自学能力」が高いほど「自主管理能力」が高いので、合格率が高まる
- 5、合格率が高い受け入れ機関は、教育方針が確立されており、言語の専門家に教育指導を委託しているので、必然的に合格率を高められる
- 6、言語の専門家は、定期的に受験者の到達度を数値で報告するために、受け入れ機関は、客観的に到達度を把握できる体制が確立している
- 7、受験半年前には、言語の専門家は合否が把握できるので、受け入れ機関と受験者間で、将来の進路相談する体制が確立している

貴機関の実情と比べてみて下さい。

1、合格率を高めるための体制づくりが必要

- ※ 多くの受け入れ機関は勤務時間内で学習時間を与えているが、受験者に「時間と場所を提供」だけで管理することが管理体制と捉えている機関が多い。だが、これは管理しているとは言えない。
- ※ 多くのEPA担当者は、授業実態や教育効果を把握していないままに過ごしている。これは、管理体制が確立しているとは、決して言えない。
- ※ さらに、日本語教育には素人である職員が苦悩しながら教育している。その結果、教育効果も上がらず、受験者の学習意欲をなくさせ、悪くすれば、途中帰国者等を出して、貴重な人材を失っている。

2、効果的な管理体制とは？

- ※ 図1【実践能力の育成過程】に基づいた「三か年学習計画」を準備して、単年度ごとに【学習目標】を設定し、その目標に近づくように、日常的な管理をすることが重要なことだ。
- ※ その管理内容は、教育方針との関係で学習管理をすることが最も重要なことだ。まず第一に、受験者の学習の進捗状況を把握すること。第二に、言語能力の到達度を数値で把握すること。第三に、自学の実施をしているか、否かを把握すること等が、管理体制を確立する基本要素となることを、認識する必要がある。

到達度試験参加者にしか
教えない「極秘ノウハウ」！！

III、[受験テクニック(概要)の養い方！]

1、五要素を使うには、「キーワード」を探す目が必要

- ※ 図3の五要素を受験者に習得させるためには、「キーワード」を見出す能力を養う必要がある。「キーワード」を見つけ出すことができれば、国家試験問題を簡単に解説でき、そして、正しい答えを選び出す能力が、訓練次第で短期間に身につけることができる。
- ※ 国家試験問題の解答方法は、マークシート形式であるために、選択文から一文だけを抽出できれば良い。しかし、その一文を選び出すためには、「キーワード」が見出せない受験者にとっては、正解文を選ぶことは決して、できない。

2、「情景設定問題」にも五要素は利用できる

- ※ 事例問題は、受験者にとって長文読解力が必要なために、非常に難しい問題となっている。しかし、【五要素の視点】を習得すれば、事例文の解答は短時間でできる。到達度試験参加者は、事例問題を1問1分間で解答でき、その正解率はほぼ100%となっている。故に、決して長文読解力が必要な事例問題は、難しいとは言えない。

図3 【受験テクニック(概要)の五要素】

- ① 過去問題を六つのテクニックに基づき、キーワードの抽出方法を学ぶこと。
- ② 正誤を確認するために、解答解説書を読み、専門知識を学ぶこと。
- ③ 「なぜ、この選択文は間違いなのか」と「なぜ、この選択文が正解なのか」等を吟味しながら、正解と間違いの正誤を考える学習をすること。
- ④ 解説文の中で、語彙理解ができない専門用語・知識に対して、現場の職員に口頭で質問すること。
- ⑤ 「なぜ、この選択文が間違いなのか」の理由を現場の職員に質問すること。

★ 受験者にも渡して、「読み聞かせ」をして下さい。

職員の声！ この差って何？

到達度試験参加「前と後」では、どんな変化が生まれたか？

【前】 タガログ村を作って、 職場に溶け込めない！！

- 1. 聴解力** 指示をしても内容を理解できず、おどおどしていた。仕方なく、手取り足取りで理解させていた。いつも指示と違ったことをしてしまっていた。
- 2. 会話力** 質問に対する返答が、何を言っているのか分からなかった。長い話はできないため、単語で答えていた。職員との会話はできず、業務上最低必要な会話をするが、それも理解できなかった。
- 3. 読解力** 漢字が全然読めない、事業団の教材を読ませても読めなかった。そこで、職員が読みを指導しても、変な読みの音を繰り返していた。そして、教材の日本語文を読む意欲すら見せなかった。
- 4. 構文力** 聞き取りと漢字読みができないために、文を書くのがとても無理だった。施設内の表示や標識の漢字すら読めず、いつも戸惑いがちだったので、文をとて書ける状態ではなかった。

5. 職場の雰囲気

到達度試験参加前の4月までは、受験者をお客様扱いして、午前中は仕事、午後から学習の時間をとっていた。だから、職場の雰囲気がとても良くなかった。日本人と受験者との間に壁があり、会話がなかった。フィリピン人を複数人受け入れているので、タガログ村が自然にできてしまっていた。その結果、仕事で指導する時は、意思疎通ができないために、非常に混乱していた。日本語力が低いことは、一目瞭然だったが、それを改善する方法が分からなかった。

【後】 教育の仕方次第で、 職場環境に大きな変化！！

- 1. 聴解力** 言われていることが分からない時は「分からない」とはっきりと言い、そのままにしないで、質問をもしてくるようになった。この変化に現場は、驚いている。
- 2. 会話力** 職員と会話を積極的にするようになり、単語の返答から、文を使った会話ができて、意思疎通が可能になった。日本語力の高い者には、他の受験者に日本語で伝達する役割をさせることもできるようになった。
- 3. 読解力** 受験対策の受験者は、熟語漢字、特に三文字熟語以上の読みの規則性を指導された結果、正しく読めるようになり、その意味も理解できるようになった。その結果、過去問題集も理解しながら速く読める。
- 4. 構文力** 到達度試験を受けるために、「書く力」も身についてきている。業務のカルテは、PCで入力をして上手に書けるようになり、会議等でも、メモを取ることが習慣になってきているのを見て皆、驚いている。

5. 職場の雰囲気

以前は、日本語教師が定期的に指導していたが、その教育効果を実感できなかった。「この状態では大変なことになる」と思い受験者が二年目、三年目に入ってから、到達度試験に途中参加した。4月から教育指導のもとに、勤務中の学習時間を与えず、一日中業務をさせている。職員と一緒に同じように業務をさせることで、会話が生まれ職場の雰囲気もずっと良くなった。今では、夜勤にも入れるようになり、申し送りも的確にできている。タガログ村は、ほぼ、消滅した。

【事例紹介】：「三年目・延長組でも、合格の可能性大！！」（高知県 Y施設）

- 上記の例の対象者はフィリピン人で、入職後二年目が4名、三年目が1名、延長者が1名だ。到達度試験参加前は、一年間から二年間地元の日本語教師が教育指導をしていた。
- 参加前は、日本語教師から教育結果の報告や指導内容については、一切、知らされていなかった。そのため、現場並びに施設の幹部は、受験者の能力を客観的に把握することができなかった状態だ。日常的にタガログ村を作り、職員との交流はない。
- 到達度試験参加直後には、受験者の言語能力を把握するために、【10分間テスト】を受けさせ、結果は、予想通りその能力は非常に低かった。
- 到達度試験参加後、3か月間で上記の通り、受験者の意識に大きな変化が起こり、職場環境が目に見えて良くなった。現在、来年と再来年の受験者をグループ分けし指導を行っている。来年の受験者は合格圏に入り、さらなる確実な高得点での合格を目指している段階だ。

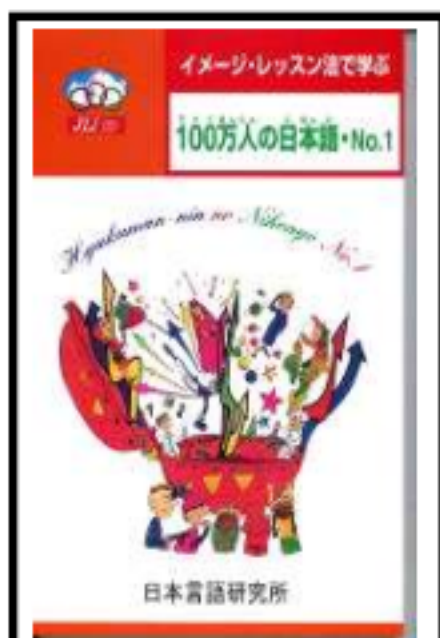
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる
- ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
- ③ 漢字も類推して読める
- ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

EPA学習支援
スカイプ・総研の園い合せ
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

学習支援 主教材

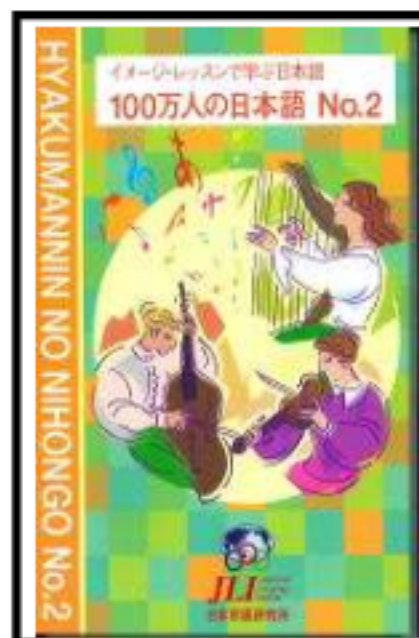
基礎言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2805 円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2805 円)

※ 習得漢字数 420 字～640 字

※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,300 円)

※ 習得漢字数 850 字～1,700 字

※ 習得語彙数 1,116 語～3,330 語

使ってみてビックリ！

教育効果の高さ

学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。

イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。

(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。

(1,980 円)



『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。

非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。

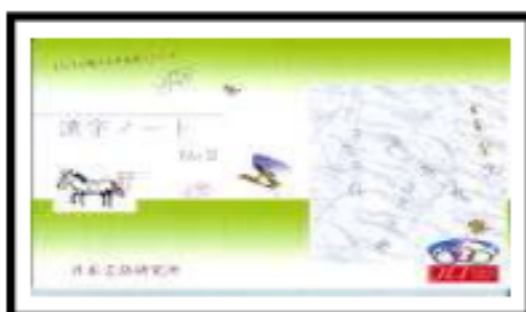
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が織り成されています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその育出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。

漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。

非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。

また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。
言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かき (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試3レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

- 【指導内容】
- ① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
 - ② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導
 - ③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一 年 目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二 年 目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三 年 目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約能力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型) ＜ おまかせコース ＞

【一年目 到達度試験(初回～Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵カード(瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と(構文力育成用)

・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E～国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2、3レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【指導内容】

① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一 年 目	★基礎言語能力の育成 ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。 ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。 ④簡単な業務日誌が書ける。 ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。
二 年 目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。 ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。 ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。 ③自学で「過去問」を解ける。 ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。
三 年 目	★職域言語能力の育成 ①業務の実践力を養う。 ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。 ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。 ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。 ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。 ③マークシートの解答ではなく文章による解答ができる。 ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】 EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています。** また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職 域 言 語 能 力 を 養 う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生 活 言 語 能 力 を 養 う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基 礎 言 語 能 力 を 養 う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		